

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11)実用新案登録番号

第3049269号

(45)発行日 平成10年(1998) 6 月 9 日

(24)登録日 平成10年(1998) 3 月18日

(51)Int.Cl.⁹

B 4 2 D 15/00

識別記号

3 3 1

F I

B 4 2 D 15/00

3 3 1 K

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 (全 7 頁)

(21)出願番号 実願平9-11012

(22)出願日 平成 9 年(1997)11月28日

(73)実用新案権者 000132840

株式会社タイトー

東京都千代田区平河町 2 丁目 5 番 3 号 タ

イトービルディング

(72)考案者 熊澤 菜々子

東京都千代田区平河町二丁目 5 番 3 号 株

式会社タイトー内

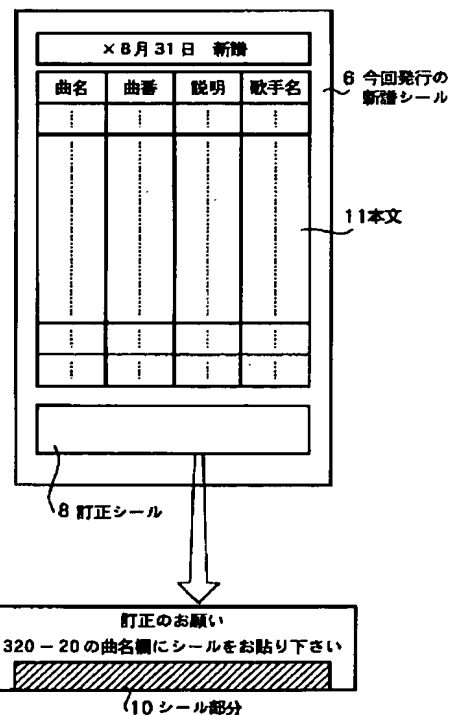
(74)代理人 弁理士 井ノ口 壽

(54)【考案の名称】 訂正シール付き新譜シール

(57)【要約】

【課題】 曲名未定で空欄などが生じていた新譜シールについて、次の新譜シールの余白を利用して訂正シールを作ることにより、従来に比較し最短の日数で空欄や訂正のある新譜シールの行を正しい内容で補充することができる新譜シールを提供する。

【解決手段】 前回発行した新譜シールに空欄や訂正事項がある場合には、今回発行する新譜シールの下方に訂正シール (8) を設ける。訂正シール (8) のシール部分 (10) を剥がして前回発行した新譜シールの空欄などに貼付する。曲名リスト本の巻頭部分に貼り付けられた新譜シールの空欄などはすぐ埋められるので、カラオケ利用者は、最新の新譜を落ちなく選曲することができる。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 曲名、曲番、内容説明および歌手名を記述した新譜を複数記載し、一定期間ごとに配布し、所定の綴り本などに綴じるためのカラオケ用の新譜シールにおいて、

今回記載する 1 以上の新譜を掲載する欄と、

前回の新譜中に曲名や曲番などが空欄や訂正の必要がある新譜がある場合には訂正シールを貼付した訂正シール欄とを有し、

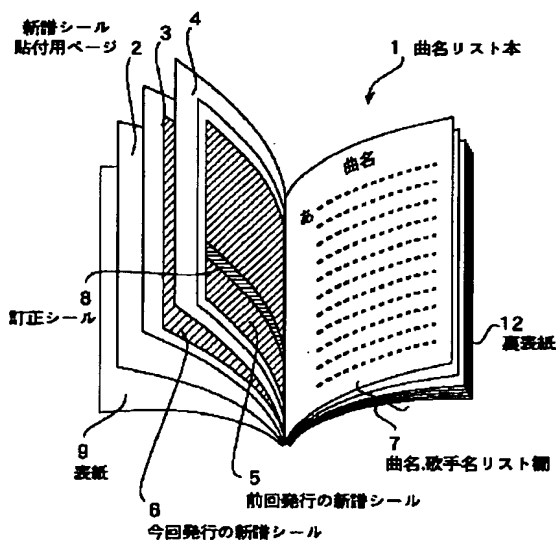
前記訂正シール欄から訂正シールを剥がし前回配布された新譜シールの空欄または訂正すべき新譜の行に貼付するように構成したことを特徴とする訂正シール付き新譜シール。

【請求項2】 前記訂正シール欄は、新譜シールの下欄に設けたことを特徴とする請求項1記載の訂正シール付き新譜シール。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案による新譜シールを貼り付けた曲名リス*

【图 1】



2

* ト本の一例を説明するための図である。

【図2】空欄がある新譜シールの一例を示す図である。

【図3】本考案による新譜シールの実施の形態を説明するための図である。

【図4】従来の新譜シールの問題点を説明するための図である。

【符号の説明】

- 1, 2 0…曲名リスト本
2, 3, 4…新譜シール貼付用ページ
5…前回発行の新譜シール
6…今回発行の新譜シール
7…曲名、歌手名リスト欄
8…訂正シール
9…表紙
1 0…シール部分
1 1…本文
2 1…新譜シール
2 2…空欄

【图2】

[illegible]

● 1980年11月27日、全日本学生音楽コンクール
第27回大会で、第1位入賞。
● 1981年、NHK紅白歌合戦「ジュニア・トップスター」として
出場。同年、NHK音楽コンクールで第1位入賞。
● 1982年、NHK音楽コンクールで第1位入賞。

[illegible]

【考案の詳細な説明】**【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案は、曲名、曲番、内容説明および歌手名を記述した新譜を複数記載し、一定期間ごとに配布し、所定の綴り本などに閉じるためのカラオケ用の新譜シールに関する。

【0002】**【従来技術】**

通信用カラオケシステムが普及しており、例えば、月に2回新譜シールがユーザーに配布されている。

月末の新譜シール（曲名リスト本巻頭の新譜ページ用）のデータ入稿は、早い場合、CD発売日の1ヶ月前になっているため、「曲名」が未定で掲載できないことが多々ある。

そのため、曲名の欄が「未定」と表記されたまま長期に渡って残されてしまうことがある。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

図4はその場合の新譜シールの欄の一例を説明するための図である。

例えば、曲名リスト本〔VOL31〕20の巻頭に、9月30日配布の新譜シール21が貼付されるが、その新譜シール入稿時に特定の歌手の「曲名」情報が間に合わなく空欄22になっている場合、12月10日発売の曲名リスト本〔VOL32〕23が発行されるまで曲名を掲載することができない。

また、上記の問題を解決する手段としてできるだけ早く知らせるためには情報遅れで掲載できなかった曲名や訂正事項をカラオケ通信システムの画面によってフォローすることが可能であるが、上記のように曲名リスト本の新譜シールには空欄が残ったままとなり、曲名リスト本によって曲名を選択するカラオケ利用者は、演奏できる曲名が存在するにもかかわらず、依然としてその曲名を知ることができないという欠点があった。

【0004】

本考案の目的は、曲名未定で空欄などが生じていた新譜シールについて、次の新譜シールの余白を利用して訂正シールを作ることにより、従来に比較し最短の日数で空欄や訂正のある新譜シールの行を正しい内容で補充することができる新譜シールを提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】

前記目的を達成するために本考案による新譜シールは、曲名、曲番、内容説明および歌手名を記述した新譜を複数記載し、一定期間ごとに配布し、所定の綴り本などに綴じるためのカラオケ用の新譜シールにおいて、今回記載する1以上の新譜を掲載する欄と、前回の新譜中に曲名や曲番などが空欄や訂正の必要がある新譜がある場合には訂正シールを貼付した訂正シール欄とを有し、前記訂正シール欄から訂正シールを剥がし前回配布された新譜シールの空欄または訂正すべき新譜の行に貼付するように構成してある。

前記訂正シール欄は、新譜シールの下欄に設けて構成してある。

【0006】

【考案の実施の形態】

以下、図面を参照して本考案の実施の形態を詳しく説明する。

図1は、本考案による新譜シールを貼り付けた曲名リスト本の一例を説明するための図である。

図1において、曲名リスト本1は、曲名、歌手名で索引できるリスト欄7部分と、白紙の新譜シール貼付用ページ2、3、4部分、表紙9および裏表紙12より構成されている。新譜シール貼付用ページ2、3、4はそれぞれ裏と表に新譜シールが貼付でき、2週間毎に新譜シールが発行される場合には少なくとも3カ月分貼付できるようになっている。

【0007】

新譜シール貼付用ページ4には空欄があった前回発行の新譜シール5が貼付されており、今回発行の新譜シール6の下方に貼付されていた訂正シール8が上記空欄部分に貼付されている。

この例では今回発行の新譜シール6は新譜シール貼付用ページ3の表側に貼付

されているが、説明の便宜上見える部分に貼付したもので、今回発行の新譜シール6を順番に貼付していくならば、新譜シール貼付用ページ4の裏側に貼付されることになる。

【0008】

図2は、空欄がある新譜シールの一例を示す図である。

この例は8月15日発行の新譜シールであり、新譜の上から7行目の「○田○え」の曲名欄に曲名情報が間に合わず空欄になっているものである。この新譜シールには前回以前に配布された新譜シールには空欄や訂正事項がないため、本文以外に訂正シールは貼付されていない。

【0009】

図3は、本考案による新譜シールの実施の形態を説明するための図である。

この例は8月31日発行の新譜シールである。

本文の各行には曲名、曲番（リクエスト番号）、説明、歌手名が記載されている。

本文の下方には訂正シール8が貼付されている。訂正シール8には前回配布した新譜シールの空欄にシール部分10を剥がして貼付する旨の文言が書かれている。このシール部分10を訂正シール8として貼付した例が図1である。

【0010】

この8月31日発行の新譜シール6についても訂正事項や空欄がある場合には、9月15日発行の新譜シールには同様に訂正シールが付加されることになる。

曲名リスト本が3カ月毎に発刊されるとなると、従来では最長3カ月空欄や訂正していない部分が存在していたが、本考案によれば、空欄や訂正しない箇所がそのままで放置される期間は短縮される。

【0011】

【考案の効果】

以上、説明したように本考案によれば、今回の曲名リスト本に空欄がある場合、次号の曲名リスト本が発行されるまで、そのままの状態に貼付されていた新譜シールが次の新譜シールの余白を利用して訂正シールを設けることにより、例えば、3カ月（3カ月毎に曲名リスト本が発行されていた場合）訂正できなかった

訂正事項や空欄が少なくともそれよりも短時間でその内容を訂正したり、埋めたりでき、カラオケ利用者は、その内容を次の曲名リスト本が発行される前に知ることができ、最新の曲を落ちなく選曲できるという効果がある。

また、新譜シールには訂正シール部分だけ切り取れるように設けられているので、新譜シールの縦幅は短くなるものの、手間が省け、かさばらないため、営業マンは従前のとおり、新譜シールを運ぶことができる。